

R410A 対応

三菱業務用ロスナイ

外気処理ユニット（天井埋込形加熱加湿付直膨タイプ）〔ドレンアップメカ内蔵形〕

形名

LGH-N50RDF2-DM

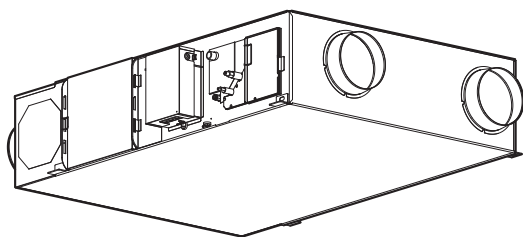
LGH-N80RDF2-50-DM,-60-DM

LGH-N100RDF2-50-DM,-60-DM

冷媒回路内にほこり、ごみ、水分等が混入しないよう、従来以上に冷媒配管工事に注意してください。

## 据付工事説明書

## 販売店・工事店様用



この製品は LGH-N50, 80, 100RDF2 タイプにドレンアップメカを内蔵したものです。この据付工事説明書に同梱の LGH-N50, 80, 100RDF2 タイプの据付工事説明書も併せてご覧ください。

※本説明書に記載されている内容のみ異なります。

据付工事を始める前に、この説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。ご購入された製品がお客様のご希望の製品であることをご確認ください。

■据付工事は必ず専門の工事店で実施してください。電気工事は電気工事士の方が実施してください。（お客様自身で取付けないでください。無資格者の電気工事は法律で禁止されています）  
給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が実施してください。

## もくじ



ページ

安全のために必ず守ること…	2～3
外形寸法図…	4
据付方法…	5～6
給水配管工事…	5
ドレン配管工事…	5～6
電気工事…	7
機能設定のお願い…	8
試運転…	8～12




同梱の「取扱説明書」はお客様用です。据付工事が終わりましたらこの説明書と同梱の「据付工事説明書」ともに、お客様に必ずお渡しください。

# 安全のために必ず守ること



■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 <b>警告</b>	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
 <b>注意</b>	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの




■ “図記号” の意味は次のとおりです。

 <b>禁止</b>	 風呂・シャワー室での使用禁止
 <b>分解禁止</b>	 指示に従い必ず行う
 <b>アース線接続</b>	

## 警告

 <b>禁止</b>	当社指定の冷媒以外は絶対に封入しない 法令違反の可能性や、使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災などの発生のおそれがあります。封入冷媒の種類は、機器付属の説明書あるいは銘板に記載されています。それ以外の冷媒を封入した場合の故障・誤動作などの不具合や事故などについては、当社は一切責任を負いません。	 <b>指示に従い必ず行う</b>	漏電保護用に電源側へ漏電ブレーカーを使用する (漏電した場合、火災の原因になります)
	低温 (0℃以下) となる場所には据付けない (電磁弁、配管等が破裂し、水漏れの原因になります)		製品金属部 (金属製ダクト) がメタルラス張り、ワイヤラス張り、ステンレス板などの金属と電氣的に接続しないように取付ける (接続されていると漏電した場合、火災の原因になります)
 <b>分解禁止</b>	改造や必要以上の分解をしない (火災・感電・けがの原因となります)		電気工事の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る (通電状態では感電やけがをすることがあります)
 <b>風呂・シャワー室での使用禁止</b>	浴室など湿気の多い場所には、本体・コントロールスイッチとも取付けない (感電や故障の原因になります)		凍結のおそれのある地域では、必ず凍結防止工事を行う (電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因になります)
 <b>アース線接続</b>	アースを確実に取付ける (アースを取付けないと故障や漏電のときに感電の原因になります)		冷凍サイクル内に、室外ユニットと同種の指定冷媒を使用する (異なった冷媒や空気等が混入すると、破裂等の原因になります)
 <b>指示に従い必ず行う</b>	定格電圧、制御容量範囲で使用する (間違った電圧で使用すると火災や感電の原因になります)		火気使用中に冷媒ガスを漏らさないよう注意する。溶接作業は開放された部屋で実施する (有毒ガスが発生し、ガス中毒の原因になります)
	コントロールボックスカバーは施工後、必ず取付ける (ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因になります)		据付工事は、指定冷媒用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に行う (使用している HFC 系 R410A 冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約 1.6 倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また水漏れや感電・火災の原因になります)
	外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ (新鮮な空気が入らず、酸欠状態になるおそれがあります)		冷媒配管は、JIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」の C1220 のりん脱酸銅を、配管継手は、JIS B 8607 に適合したものを使用し、配管接続を確実に行う (配管接続に不備があると、アース接続が不十分となり感電の原因になります)
	本体の据付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う (落下によりけがをすることがあります)		据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する (冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります)
	端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する (接続に不備があると火災のおそれがあります)		
	電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付工事説明書に従って取付けし、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する (電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因になります)		

# ⚠ 注意

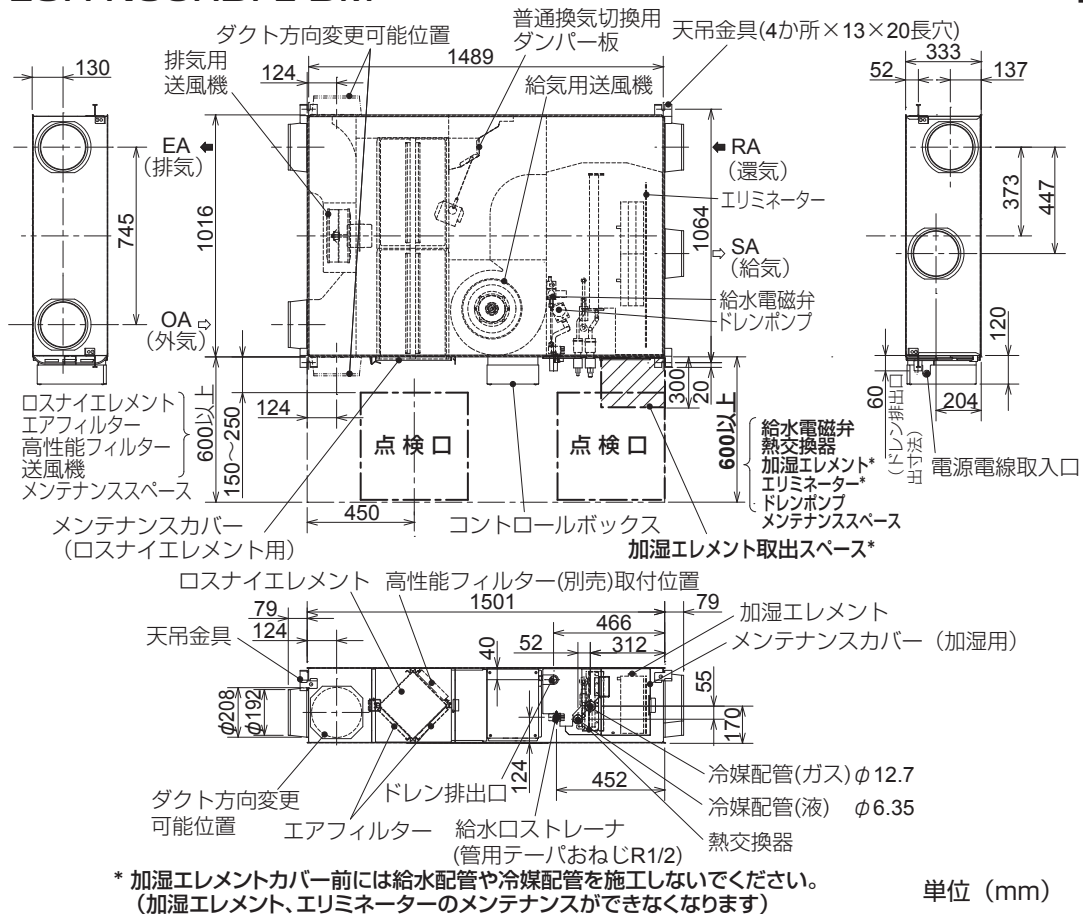
 禁止	高温（40℃以上）や直接炎があたったり、油煙の多い場所には据付けない （火災のおそれがあります）	 指示に従い必ず行う	吊りボルト・ナット・ワッシャーは必ず指定のものを使用する （指定以外のものを使用すると落下の原因になります）
	機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所には据付けない （絶縁劣化による漏電火災や故障の原因になります）		据付けの際は手袋を着用する （着用しないとけがの原因になります）
	塩害・温泉害などの発生している場所には据付けない （絶縁劣化による漏電火災や故障の原因になります）		ドレン工事は据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないように断熱処理をする （配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財などを濡らす原因になります）
	ドレン配管の先端を雨どい等に入れ ない （大雪時、雨どいが凍結して排水されず、本体から水漏れする原因になります）		SA 側のダクト、システム部材およびドレン配管には必ず断熱処理を行う （冷房時、結露により漏電・家財の破損のおそれがあります）
	ドレン配管の途中に市販のドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続して排水を処理しない （製品の異常停止や、ドレンポンプの故障により水漏れし、天井・床・その他、大切なものを濡らす原因になります）		冷媒種類毎（R410A）使用機器の注意点（同梱の据付工事説明書 12～13 ページ参照）を守る （守らないと能力不足や冷凍機油劣化の原因になります）
	軟水器を使用しない （残留物が析出し、飛散する原因になります）		製品の運搬には十分注意して行う （20 kg以上の製品は原則として二人以上で行ってください。PPバンドなどで所定の位置以外を持って製品を動かさないでください。素手で板金部品などに触れるとけがをする場合がありますので保護具をご使用ください）
	過加湿にしない （結露により、建物を傷める原因になります）		冷媒配管の断熱は結露しないよう確実に 行う （不完全な断熱処理を行うと配管など表面が結露して、露タレなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。接続部の断熱施工は、気密試験後に行ってください）
 指示に従い必ず行う	本体より室外側のダクトは室外に向かって下りこう配（1/30 以上）になるように取付け、断熱処理を確実に 行う （雨水の浸入による漏電・火災や家財の損傷のおそれがあります）		
	据付け後長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る （絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります）		

# お願い

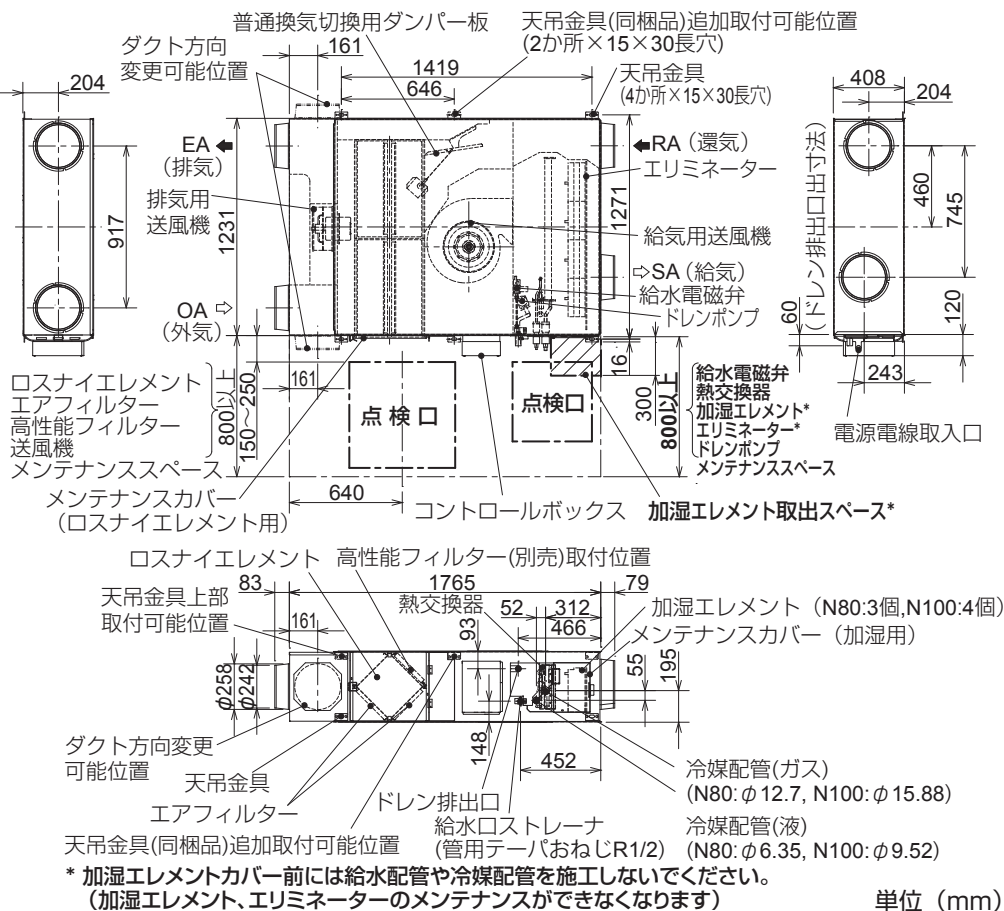
- 運転・停止時に加湿部が 0℃ 以下とならないよう施工してください。冷風侵入により加湿部が凍結破損するおそれがありますので電動ダンパーを併用してください。
- 外風の強い場所や室内外の圧力差がある場合、寒冷地や霧の発生しやすい場所では運転停止時に、冷氣・外風・霧・高温高湿空気が浸入することがありますので、電動ダンパーを必ず併用してください。また、寒冷地や霧の発生しやすい場所以外でも室内外の圧力差や外風により外気が製品内に浸入するおそれがありますので、電動ダンパーの併用をおすすめします。
- 高温多湿条件（30℃ 以上のとき、相対湿度 80% 以上のとき）や霧の多発地域で長時間使用となる場合、エレメント内部に結露が生じてドレンが発生することがあります。このような条件下では使用できませんので、耐湿形口スナイをご使用ください。
- 天井材は共鳴しにくい材質をご使用ください。
- 寒冷地などでは使用条件範囲内で使用する場合でも、外気条件と天井裏温湿度条件によっては本体表面およびダクト接続部が結露・結氷するおそれがあります。このような使用条件下で使用される場合は、断熱材の重ね貼りの追加工事を実施してください。
- 濡れて困るものの上に製品を設置しないでください。外気や設置場所の温湿度条件により製品から露が落ちる場合があります。
- 給気・排気が混ざらない配管工事を行ってください。
- 給気側屋外フード近くに窓面などがあり、照明光に虫が集まりやすい環境下でのご使用の場合には、虫の侵入対策として別売のフィルター付給気グリルを取付けることをおすすめします。（取付けないと室内給気へ虫が侵入するおそれがあります）
- 室外側の OA（外気）、EA（排気）ダクトに過大な圧力損失がかかると RA（還気）側から SA（給気）側、もしくは EA（排気）側から OA（外気）側への空気漏れが増加する傾向があります。OA 側、EA 側に過大な圧力損失がかからないよう施工してください。
- 給水・排水工事は各市町村の条例に従ってください。
- 喫煙室での換気用途としてはご使用できません。
- 本製品は、定期的なメンテナンスを怠ると性能低下の原因となります。メンテナンスのために必ず本紙に記載しているメンテナンススペース、点検口を設置してください。

# 外形寸法図



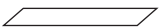


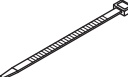
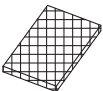




## LGH-N50RDF2-DM



## LGH-N80RDF2-DM・LGH-N100RDF2-DM



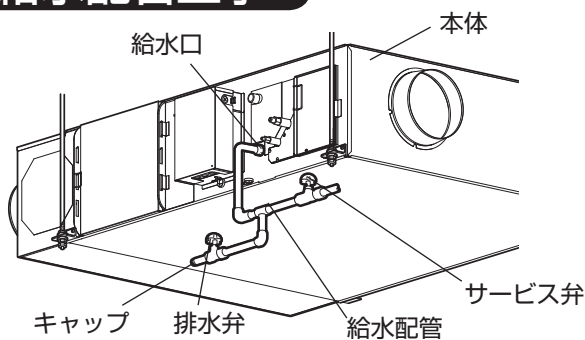
## ■付属部品

ダクト接続工事用 (P6)	①ダクト接続フランジ ……4個  ②取付ネジ ……16本  ③アルミテープ…1枚 
ドレン配管工事用 (P9,10)	④ドレンホース…1個  ⑤断熱材 (ドレン配管用) ……1個  ⑥結束バンド (大) ……1本 (小) ……2本 
冷媒配管接続工事用 (P11~13)	⑦断熱材 (冷媒配管用) ……2個  ⑧断熱パイプ…2個 (ガス管用 (短) 液管用 (長))  ⑨結束バンド (大) ……4本 
本体固定用 (P7)	⑩天井金具…2個 (LGH-N80,100タイプのみ)  ⑪天井補助金具…4個 (LGH-N50タイプのみ) 

\*ページは同梱の据付工事説明書のページです。

# 据付方法

## 給水配管工事



### 換算のしかた

$$1\text{Pa} = 1.01972 \times 10^{-5} \text{kgf/cm}^2$$

目安として  $1\text{kgf/cm}^2 \div 0.1\text{MPa}$  で換算する

### お願い

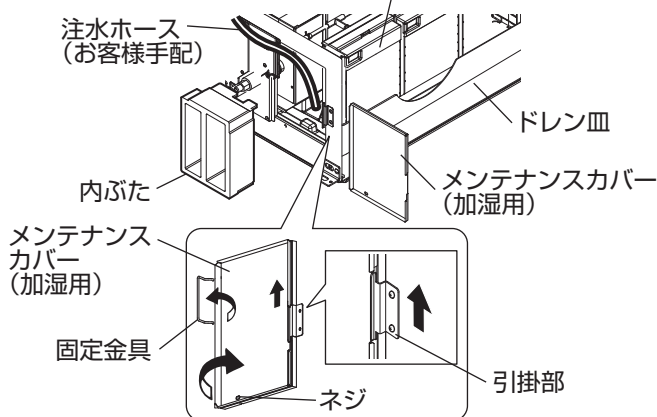
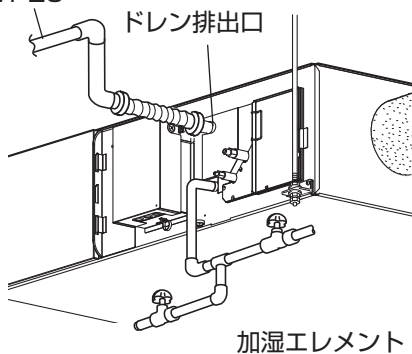
- 給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が指定された配管材料を使用して施工してください。
- 給水温度は  $5^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$  以下としてください。
- 排水弁およびサービス弁は点検口からとどく範囲に設置してください。
- 給水口に力が加わらないよう給水配管を固定してください。
- 配管工事用切削油・洗浄液が混入しないようご注意ください。
- 給水配管およびドレン配管がメンテナンスカバー（ロスナイエレメント用および加湿用）の開閉および加湿エレメント、エリミネーターの取り出しの妨げにならないよう配管してください。
- 切削油などの油類は加湿エレメントおよびドレン皿を劣化させますので供給水に切削油などが含まれないようにしてください。付着した場合には直ちに多量の水で洗い流してください。

給水配管工事に際して給水配管と給水口（管用テーパおねじ R1/2）との間に、屈曲・振動などを吸収するため市販の可とう性のあるフレキシブルパイプ等を使用して接続する。

- 給水口と接続の際はネジの種類に注意し、ネジの種類をあわせて工事を行う。
- 給水は、市水または上水を使用し防露工事を行う。（凍結のおそれのある場合は凍結防止工事を行う）
- 給水圧力は水道管に接続する場合、シスターンタンクを使用する場合、いずれの場合も  $0.05\text{MPa} \sim 0.49\text{MPa}$ 、給水量は  $350\text{cc/分}$  以上になるように設定する。
- 給水口近くにサービス弁・排水弁を設置して給水配管を行う。
- 給水配管工事の際、切り粉などが入らないよう真水できれいに洗い流してから配管するか、配管途中に排水弁を設け、水の白濁がなくなるまで十分予備排水を行う。（排水が不十分な場合は給水電磁弁の故障や加湿エレメントの機能低下の原因になります）
- 給水はシスターンタンク使用以外に水道管を直接接続することもできます。（地区により規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄官庁にご相談ください）

## ドレン配管工事

ドレン配管(こう配 1/100 以上)  
塩ビパイプ VP25



1. 製品側のドレン排出口に付属のドレンホースを 6 ページの図 1 を参照して接続する。（排水性確保のため）
2. ドレン配管の先端は必ず排水可能なところまで導く。（6 ページを参照ください）

### 注意

- ドレン配管の先端を雨どい等に入れない  
（大雪時、雨どいが凍結して排水されず、本体から水漏れする原因になります）
- ドレン配管の途中にドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続して排水を処理しない  
（製品の異常停止や、ドレンポンプの故障により水漏れし、天井・床・その他、大切なものを濡らす原因になります）

### 3. 排水が排出されることを確認する。

- (1) メンテナンスカバー（加湿用）をはずす。
  - ネジ 1 か所をゆるめ、固定金具をはずして加湿器メンテナンスカバーを斜め  $45^{\circ}$  に開き、上部に持ち上げて取りはずす。
- (2) 内ぶたを引き抜く。
- (3) 全ての加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレがないことを確認する。

### お願い

- 加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレがあると水漏れの原因になる場合があります。必ず修正してください。
- (4) ドレン皿に約  $1000\text{cc}$  注水する。（直接ドレンポンプに水を掛けない）
- (5) 本体の電源を入れる。
- (6) 機能切換スイッチ SW5-6（ドレンポンプ試運転スイッチ）を ON にする。
- (7) ドレン配管の最終出口部で排水されることを確認する。
- (8) 機能切換スイッチ SW5-6 を OFF にする。
- (9) 本体の電源を切る。
- (10) 内ぶたとメンテナンスカバー（加湿用）を取付ける。

※ 必要以上の水を注水するとドレンポンプが水没し、故障の原因になります。

# 据付方法 つづき

## 注意点と作業手順

- ドレン配管の施工時は以下に示す事柄を必ず守ってください。
- ドレン配管は下りこう配 (1/100 以上) とするようにしてください。
- ドレン配管は、イオウ系ガスが発生する下水溝には、直接入れないでください。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水タレが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材 (発泡ポリエチレン比重 0.03、厚さ 10mm 以上) を巻いてください。
  - ① 最上階または高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
  - ② 客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。
- 施工後、ドレンが排出されていることをドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は室外側 (排水側) が下りこう配 (1/100 以上) とするようにしてください。
- ドレン配管の立ち上げは、製品本体の排水口から 350mm 以内で、製品底面から 550mm 以下を 1 回のみとしてください。それ以降はトラップを設けないでください。
- ドレン配管に通気管、排水口から 1/100 こう配の中で横引きでの合流は設けないでください。
- 排水が逆流するおそれがありますので、ドレン配管の途中で内径を縮小しないでください。
- ドレン配管の横引きは 20m (高低差は含みません) 以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中で支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。エア抜き管は

- 絶対につけないでください。ドレンが吹出場合があります。
- ドレン揚程の処理は以下の図に示す範囲で行ってください。守られないと漏水の原因となります。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管 VP25 (外径φ 32) を使用してください。
- 必ず付属のドレンホースを使用し、外気処理ユニットのドレン口と現地配管の距離は図 1 に従い、工事を行ってください。ドレンホースの透明カフスは必ずドレン配管側 (排水の流れの可視化するため) に接続してください。
- ドレンホースに無理な引張・圧縮荷重がかからないようにしてください。
- ドレンホースの接合部は日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用し、接合および止水してください。また、差込部が抜けかないよう付属の結束バンドにて固定してください。
- 集合配管の場合、図 2 のように本体ドレン出口より 100mm 低い位置に集合配管がくるようにしてください。
- ドレン配管の出口は臭気が発生するおそれのない場所に施工してください。
 

注) ・ドレン配管スペースが横方向に取れない場合は、軟質塩ビカフス (現地手配) 等による接続をお薦めします。  
 ・天井内が高温多湿雰囲気 (露点温度 26℃ 以上) で長時間運転されますと、ドレンホース部に結露する場合がありますので、そのような条件下で使用する可能性がある場合は断熱材を貼付けるなどの処置をしてください。

## 作業手順 (基本例)

1. 付属のドレンホース④を本体ドレン口に取付け、すき間が無いように奥まで差し込む。(折れ・詰まりが起こらないように水平 (3° 以内) で使用してください) (接着剤にて接着し、付属の結束バンド (小) ⑥で締付ける)
2. 現地手配のドレン配管 (塩ビパイプ、VP25) を取付ける。(接着剤にて接着し、結束バンド (小) ⑥で締付ける)
3. 付属のドレンホース用断熱材⑤にて、本体ドレン口部を断熱し、付属の結束バンド (大) ⑥で締付ける。(大・小の結束バンドは、かさならないように締め付けてください)
4. 断熱工事を行う。(塩ビパイプ、VP25 およびソケット (エルボ含))
5. 排水性を確認する。(据付工事説明書の 5 ページを参照ください)

図 1 「ドレンホースの取付方法」

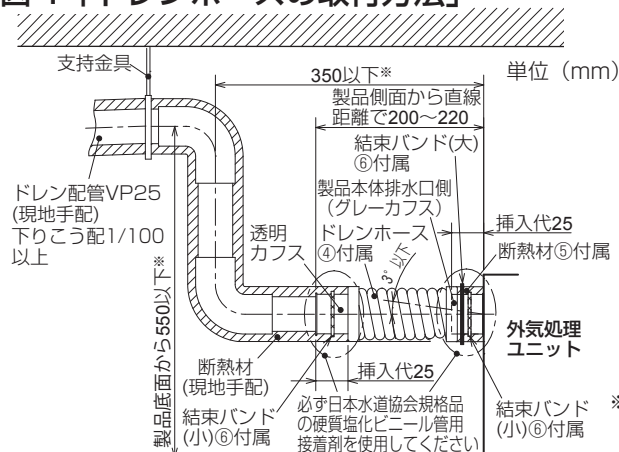
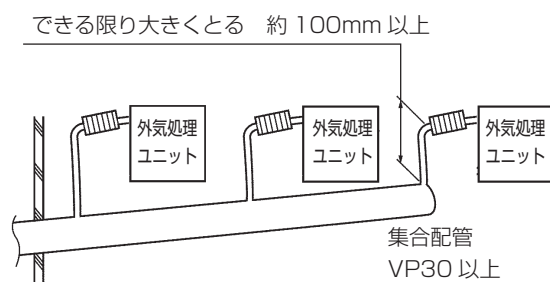


図 2 「集合配管する場合」



※左図範囲内で付属のドレンホースを使用してドレン揚程の処理を行ってください。

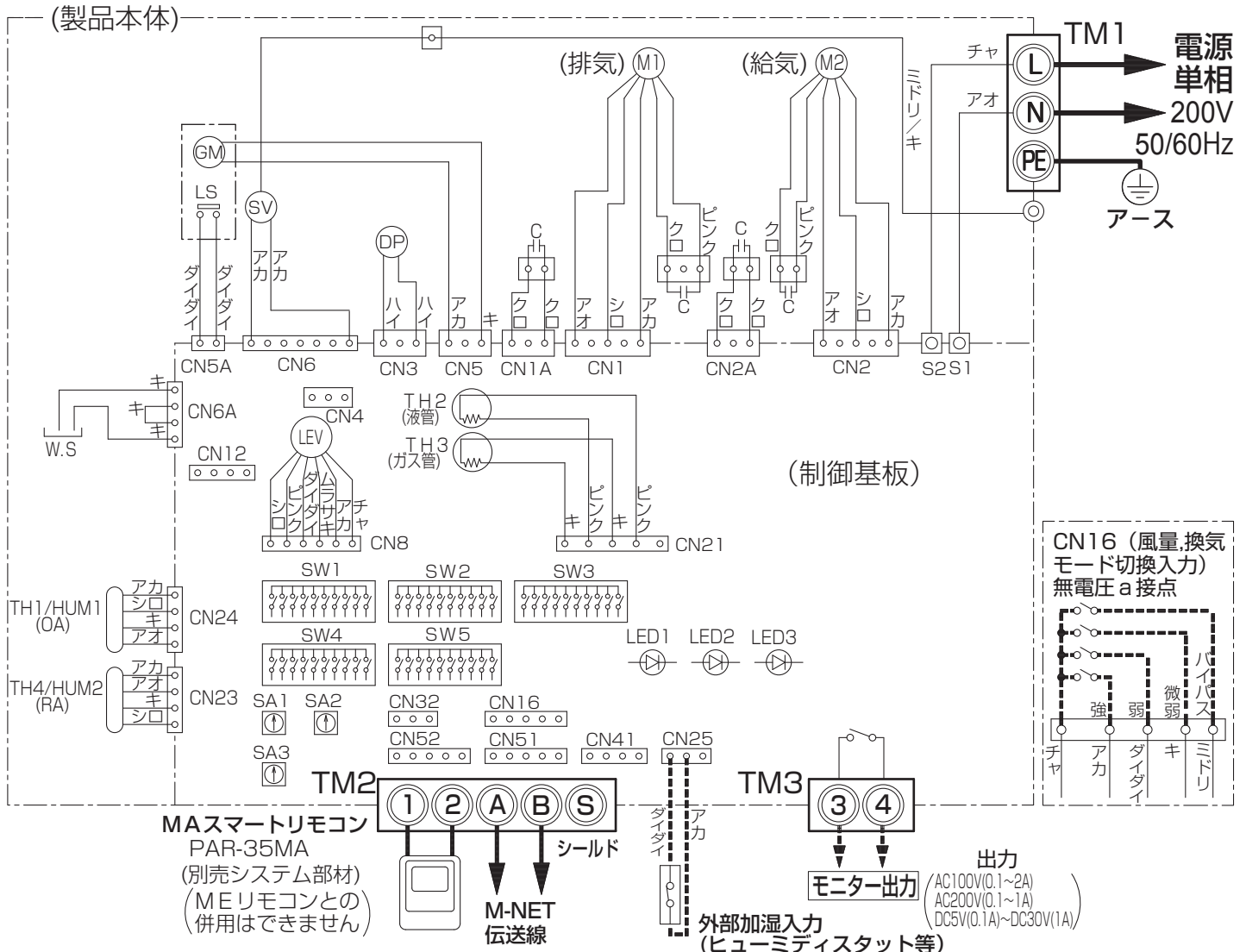
## 注意

- ドレン配管は、確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。
- ドレンホース接続時に使用する接着剤は、必ず日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用してください。それ以外を使用すると、水漏れし、家財を濡らす原因になります。
- 集合配管につながる他製品の運転の影響により配管内部の圧力が上昇し、排水されにくくなる場合があります。配管内の圧力が上がらないようご注意ください。

# 電気工事

## 結線図

※太線および破線部分を結線する。



- ※TM1:  $\phi 1.6\text{VVF}$ 用
- TM2①②, TM3:  $0.3\sim 1.25\text{mm}^2$ の電線
- TM2③④⑤: MEリモコン (10m以下)  $0.3\sim 1.25\text{mm}^2$ のシールド線 (上記以外):  $1.25\text{mm}^2$ 以上のシールド線
- ※TM1~3は現地接続、ネジ端子接続

**お願い** ※TM1の電源線は確実に差し込んだ後、引張って抜けないことを確認してください。  
 ※TM2の伝送線・リモコン線は他機器の信号線(TM3を含む)や電源線等と5cm以上離して配線してください。(誤動作防止)

## 記号説明

記号	名称	記号	名称	記号	名称
TM1	端子台(AC200V入力)	W.S	水検知センサー	CN5	コネクタ(ダンパー接続用)
TM2	端子台(M-NET伝送線、MAスマートリモコン接続)	SV	給水電磁弁	CN5A	コネクタ(ダンパーリミットスイッチ接続用)
TM3	端子台(モニター出力)	LEV	電子リニア式膨張弁	CN6	コネクタ(給水電磁弁接続用)
SW1~5	機能切換スイッチ	TH1/HUM1	温湿度センサー(外気温湿度検知)	CN6A	コネクタ(水検知センサー接続用)
SA1	アドレス設定スイッチ(10の位)	TH2	サーミスタ(液配管温度検知)	CN8	コネクタ(電子リニア式膨張弁接続用)
SA2	アドレス設定スイッチ(1の位)	TH3	サーミスタ(ガス配管温度検知)	CN12	コネクタ(CO <sub>2</sub> センサー部材接続用)
SA3	分岐口No.設定スイッチ	TH4/HUM2	温湿度センサー(還気温湿度検知)	CN16	コネクタ(風量, 換気モード切換入力)
S1, S2	ファストン端子(端子台接続用)	A, B	M-NET伝送線端子(無極性)	CN21	コネクタ(液, ガス配管サーミスタ接続用)
M1, M2	送風機用電動機(排気, 給気)	S	シールド	CN23	コネクタ(還気温湿度センサー接続用)
C	コンデンサ	1, 2	MAスマートリモコン配線端子(無極性)	CN24	コネクタ(外気温湿度センサー接続用)
GM	バイパスダンパー用電動機	CN1	コネクタ(排気側送風機接続用)	CN25	コネクタ(外部加湿入力)
LS	リミットスイッチ	CN1A	コネクタ(排気側コンデンサ接続用)	CN32	コネクタ(遠方入力)
DP	ドレンポンプ	CN2	コネクタ(給気側送風機接続用)	CN41	コネクタ(HA)
LED1	200V電源通電モニタ表示	CN2A	コネクタ(給気側コンデンサ接続用)	CN51	コネクタ(集中管理)
LED2	MAスマートリモコン給電モニタ表示	CN3	コネクタ(ドレンポンプ接続用)	CN52	コネクタ(遠方表示, デマンド入力)
LED3	M-NET伝送線給電モニタ表示	CN4	コネクタ(CO <sub>2</sub> センサー部材接続用)		

# 機能設定のお願い

ドレンアップ内蔵形は停電時自動復帰設定および電源発停機能設定が使用できません。  
同梱の LGH-N50, 80, 100RDF<sub>2</sub> の据付工事説明書 27 ページ 5, 6 は設定しないでください。

## 試運転

### 試運転前の確認



- 電源端子台と大地間を 500V メガーで計って 1.0M Ω 以上であることを確認する。
  - ・ 絶縁抵抗が、1.0M Ω 未満の場合は運転しないでください。
  - ・ 伝送線用端子台にはメグチェックは絶対にかけないでください。制御基板が破損します。
  - ・ 据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜ることにより、電源端子台と大地間の絶縁抵抗が 1.0M Ω 近くまで低下することがあります。
  - ・ 絶縁抵抗が 1.0M Ω 以上ある場合は、元電源を入れてクランクケースヒーターを 12 時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が蒸発するので絶縁抵抗は上昇します。
- 室外ユニットの高圧側と低圧側のバルブがともに全開になっていることを確認し、キャップを必ず締めてください。
- 試運転の最低 12 時間以上に前に室外ユニットの元電源を入れて、クランクケースヒーターに通電する。
  - ・ 通電時間が短いと圧縮機故障の原因となります。
- MA スマートリモコン線・伝送線用端子台には絶対に電圧をかけないでください。制御基板が故障します。
- 試運転の際に、水漏れがないことを確認してください。
- 冬期の試運転、リプレイス洗浄運転を行う場合は、加湿部分への流入空気条件が 0℃ 以下にならないようにしてください。0℃ 以下になるおそれがある場合は給水バルブを閉止し、排水弁を用いて製品本体内の水抜きを実施し、加湿「切」にしたうえで、累計 24 時間以上、「強」ノッチ運転で送風機を運転し、加湿エレメントの内に水分が残留しないようにしてから実施してください。
- 外気が -5℃ 以下では機器保護のため、試運転、リプレイス洗浄運転はできません。







試運転前に下記事項をご確認いただき、必ずチェックボックス☑をチェック願います。

	同梱の据付 工事説明書 参照ページ	本書の 参照ページ
<b>(1) 製品据付チェック</b>		
<input type="checkbox"/> 室外側ダクト 2 本、室内給気ダクト 1 本には断熱材を巻付けてありますか？……………	8 ページ	
<input type="checkbox"/> 室外側ダクトは壁側に向かって 1/30 以上の下りこう配を確保していますか？ ……	5 ページ	
<input type="checkbox"/> 室外側ダクトは 50 形 1m 以上、80・100 形 2.5m 以上の距離を確保していますか？ …	5 ページ	
<input type="checkbox"/> 外気処理ユニットの据付けは緩みなどなく、確実に据付けられていますか？…………	7～8 ページ	
<input type="checkbox"/> 冷媒配管、ドレン配管、給水配管等の断熱工事は完全に行いましたか？……………	9～13 ページ	5～6 ページ
<input type="checkbox"/> 冷媒配管、ドレン配管、給水配管は正しく配管されていますか？……………	9～13 ページ	5～6 ページ
<input type="checkbox"/> 冷媒種類は銘板に記載されている内容と間違いありませんか？……………	12 ページ	
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査によるチェックを行いましたか？……………	11 ページ	
<input type="checkbox"/> 全ての加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレが無いことを確認しましたか？ …	9 ページ	5 ページ
<input type="checkbox"/> ドレン排水の確認を行いましたか？……………	9 ページ	5 ページ
<input type="checkbox"/> 室外ユニットの高圧側、低圧側のバルブが全開になっていることを確認しましたか？…	45 ページ	8 ページ
<input type="checkbox"/> 試運転前に 12 時間以上通電していますか？ ……	45 ページ	8 ページ
<input type="checkbox"/> 外気処理ユニット、室外ユニットの吸入口、吹出口は塞がれていませんか？……………	2 ページ	2 ページ
<input type="checkbox"/> SA ダクトフランジ接続部の内側にアルミテープは貼り付けてありますか？……………	6 ページ	
<b>(2) 電気工事チェック</b>		
<input type="checkbox"/> 電源電圧は規定通りですか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<input type="checkbox"/> 接続電線は結線図通り結線されていますか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<input type="checkbox"/> 接続電線の端子台への接続は確実ですか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<input type="checkbox"/> 接続電線の固定は確実ですか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<input type="checkbox"/> 基板上的コネクタのはずれはありませんか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<input type="checkbox"/> アース工事はされていますか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<input type="checkbox"/> 電源電線、伝送線の太さ、仕様は適正なものを使用していますか？……………	14～20 ページ	7 ページ
<b>(3) 機能設定チェック</b>		
<input type="checkbox"/> アドレス設定スイッチ (SA1, SA2) の設定は正しいですか？ ……	21 ページ	
<input type="checkbox"/> R2 シリーズ室外ユニットに接続の際、分岐口設定スイッチ (SA3) の設定は正しいですか？	21 ページ	
<input type="checkbox"/> リモコンを使用する場合、SW3-1 の設定は正しいですか？ ……	28 ページ	
<input type="checkbox"/> MA スマートリモコン (PAR-35MA) からの機能設定は正しいですか？……………	23～44 ページ	
<input type="checkbox"/> 機能切換スイッチ (SW1, SW2, SW3, SW4, SW5) の設定は正しいですか？ (*) …	22～44 ページ	
* ドレンアップメカ内蔵形は工場出荷時、SW5-5 のみ標準品と異なり ON となっています。		

# 試運転 つづき

## 外気処理ユニットの試運転

1. 試運転スイッチ (SW1-1、-7、-8 と SW5-6) を「ON」にして動作を確認し、正常動作であればチェック欄に☑する。

本体回路		動作	チェック欄
スイッチ	スイッチ設定		
-1 SW1-7 -8	ON OFF  1	給気用送風機・排気用送風機に通電され強風量で運転します。	
	ON OFF  7	ダンパーモーターに通電され普通換気となります。 (送風機運転中は、排気用送風機が停止し、約 20 秒後にダンパー板が動作します)	
	ON OFF  8	加湿給水用電磁弁に通電され加湿エレメントに給水します。	
SW5-6	ON OFF  6	ドレンポンプに通電され排水します。	

### お願い

- 外気処理ユニットが停止しているときに行ってください。
- 試運転スイッチ (SW1-1、-7、-8 と SW5-6) を「ON」にすると、異常コード“0900”が表示されます。
- 試運転スイッチ (SW1-7) を「ON」にしたときダンパー板の動作音がしますが異常ではありません。

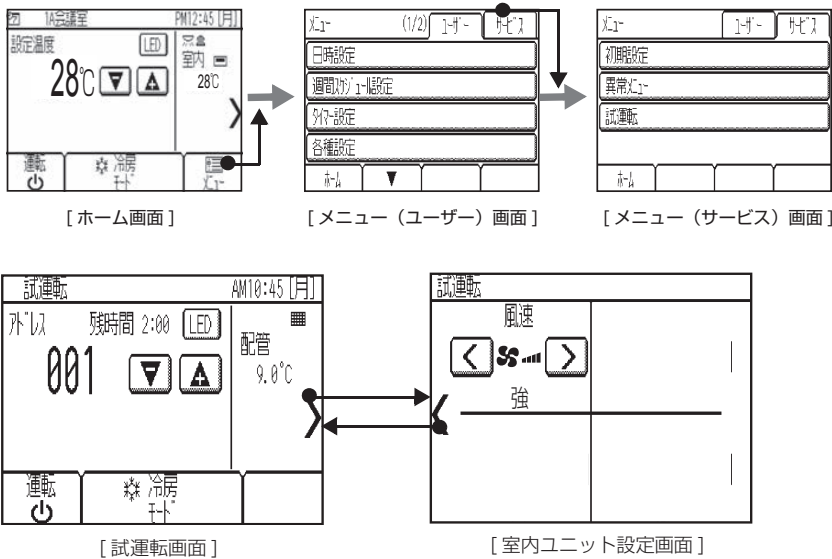
2. 試運転スイッチ (SW1-1、-7、-8 と SW5-6) を「OFF」にする。  
(SW5-5 は OFF しないでください)

## マルチエアコンと連動する場合の試運転

- マルチエアコンと連動運転する場合、マルチエアコンのリモコンを使用してマルチエアコンと外気処理ユニットの連動を確認する。

# マルチエアコンと連動運転しない (SW3-1 が ON) 場合の試運転

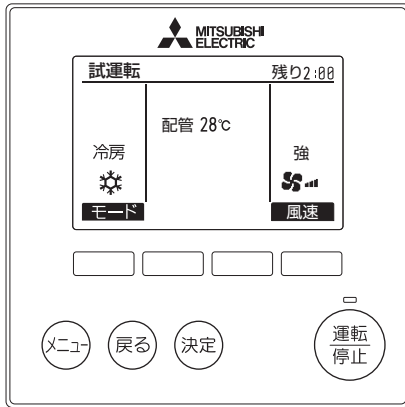
## ● ME リモコンの場合



1. 12 時間以上前に元電源を入れる。  
しばらくすると自動的にホーム画面に切り替わります。
2. リモコンを『試運転』に切り換える。  
※ サービスパスワードが必要です。(ME リモコンの据付工事説明書をご参照ください)  
初期サービスパスワードは「9999」です。  
[ホーム画面] → [メニュー(サービス)画面] → [試運転] を選択する。  
※ サービスメニュー画面のドレンポンプ試運転操作は使用できません。  
※ システム異常検知に最大 15 分かかる場合がありますので、全システム同時運転を 15 分以上実施してください。
3. **運転モード** ボタンにタッチして冷房 (または暖房) 運転に切り換える。  
冷房運転…冷風の吹出しを確認する。  
暖房運転…温風の吹出しを確認する。
4. **風速** ボタンにタッチして風速が切り換わることを確認する。
5. ドレンポンプが動作し、ドレン配管の最終出口部で排水されていることを確認する。
6. 室外ユニットのファン運転を確認する。
7. 試運転の終了  
**運転 / 停止** ボタンにタッチして試運転を終了させます。

# 試運転 つづき

## ● MA スマートリモコン (PAR-35MA) の場合



### 1. 12 時間以上前に元電源を入れる。

リモコンの運転ランプ（緑）と“Please Wait” が点滅表示し、立上げ進捗を%で表示します。点滅表示中はリモコンからの操作ができません。“Please Wait” が消灯してから操作してください。電源投入後、“Please Wait” は約 3 分間表示されます。

### 2. リモコンを『試運転』に切り換える。

※ サービスパスワードが必要です（同梱の据付工事説明書の 23 ページを参照ください）

① サービスメニュー画面で「試運転」を選択し、**[決定]** ボタンを押します。  
② 試運転メニューが表示されますので、「試運転操作」を選択し、**[決定]** を押します。

③ 試運転が開始され、試運転操作画面が表示されます。

※ サービスメニュー画面の「ドレンポンプ試運転操作」は使用できません。

※ システム異常検知に最大 15 分かかる場合があるため、全システム同時運転を 15 分以上実施してください。

### 3. **[モード]** ボタンを押して冷房（または暖房）運転に切り換える。

**[F1]** ボタンを押して運転切換を行います。

冷房運転…冷風の吹出しを確認します。

暖房運転…温風の吹出しを確認します。

※ 風速が「微弱」の場合は冷風・温風が出ません。

### 4. **[風速]** ボタンを押す。

**[F4]** ボタンを押して風速が切り換わることを確認します。

### 5. ドレンポンプが動作し、ドレン配管の最終出口部で排水されていることを確認する。

### 6. 室外ユニットのファン運転を確認する。

### 7. 試運転の終了。

**[運転/停止]** ボタンを押して試運転を終了させます。（試運転メニューに戻ります）

## お願い

● 試運転や立会検査実施後は、給水バルブまたはサービス弁を閉止し、排水弁を用いて製品本体内の水抜きを実施した上で、加湿「停止」、「ロスナイ（熱交換）換気」、「強」風量運転で累計 24 時間以上送風機を運転し、加湿エレメントの乾燥運転を行ってください。

・乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し異臭が発生する場合があります。

・給水バルブまたはサービス弁を閉止しないと、凍結・ウォーターハンマー等の影響により電磁弁・ストレーナーが破損し水漏れの原因となります。

● 異臭の発生した加湿エレメントは交換が必要になります。

# 三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。